

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察技術情報について
令和8年度病害虫発生予察技術情報第2号を発表したので送付します。

令和8年度病害虫発生予察技術情報第2号

イクビルリハムシの被害確認及び防除対策

令和8年3月に、糸満市の経済栽培におけるゲットウ葉(露地)において、多数の短いすじ状の食害痕が確認されました(図1、2)。被害葉上に多数のサルハムシ類の発生が見られたため、これを採集し、那覇植物防疫事務所へ同定を依頼したところ、イクビルリハムシ(*Cleorina aeneomicans*)であることが確認されました。本種による被害は、収量、品質の低下を招くことから、早期発見及び防除に努めましょう。

1 形態および生態

- 本種は、ハムシ科サルハムシ亜科に属する昆虫で、成虫の体長は3~4mmで、体色は金属光沢の強い緑色である(図3)。体背面は剛毛を欠き、前胸背板は明瞭な点刻を有する。頭部は前胸の中に強く引き込まれ、複眼が前胸背板前縁にほとんど相接し、中脚及び後脚の脛節は末端付近の外側がえぐれる。
- 本種は、中国南部、台湾、東南アジアなどに広く分布している。日本では令和5年に沖縄県那覇市で初確認された後、令和6年には豊見城市や宜野湾市でも確認されている。
- 本種について、台湾では、ショウガ科ハナミョウガ属やカンナなどの広葉単子葉植物に寄生することが報告されている。本県では、現時点において、ゲットウ以外での被害は確認されていない。

2 被害

- 本種によるゲットウへの被害は、成虫による葉や花の食害である。
- 成虫は葉の表面を食害し、短いすじ状の食害痕が生じる。葉については、新梢(未展開葉)を嗜好して食害する(図4)。

3 防除対策

本種に対する登録農薬はない(2026年4月現在)ため、以下の物理的防除に努める。

- 網目の細かい防虫ネットを設置し、本種の侵入を防ぐ。
- こまめにほ場の見回りを行い、本種を発見次第、捕殺する。



図1 ゲットウの葉(被害葉)



図2 ゲットウの葉(被害葉:拡大)



図3 イクビルリハムシ(成虫)



図4 新梢上のイクビルリハムシ(成虫)

★詳しくは県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL: (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

ホームページアドレス : <https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/nogyo/1010700/index.html>

